

さちひろ

発行：天理教狭千廣分教会 〒589-0021 大阪狭山市今熊1-1133 Tel.072-365-2571
E-mail:wat@sachihiro.com url:http://sachihiro.com 編集兼発行人・山口 渡

天理教狭千廣分教会の広報紙

- 1面・みんなの教理入門(8)
- 2面・幸せを届ける言葉
- 3面・連載・おさしづの点滴
- 4面・教会の動き・編集後記

教会の動き

- 朝づとめ…毎朝・6時30分
 - 夕づとめ…毎夕・7時00分
 - 春季大祭…1月21日午後1時30分
 - 秋季大祭…10月21日午後1時30分
 - 月次祭…毎月21日 午後1時30分
 - 春・秋季霊祭…
3月22日・9月22日 午後1時30分
- ※教会の場所は、左の地図の📍マーク。市立公民館の裏・西側です。



■中河大教会創立百二十周年へ
中河大教会は、再来年3月に創立百二十周年を迎えます。

それに向けて、創立の元一日に、そしてそれぞれの信仰の元一日に「思いを復(かえ)し、日々の理を重ね、ご恩報じに励みましよう」とのスローガンを掲げて、歩みを進めています。

上はそのポスターです。

またそれに向上級・



狭山分教会は別席団参を実施します。そのポスターです。これはわたしが作りました。



《編集後記》

▼第29号ができました▼夏が終わり、賑やかだったセミの声も9月になって、ようやく止んで、虫の声に代わってききました。▼しかしこのところの雨の降り方には、わたしたちの住む世界の環境・秩序が崩れてきていることを暗示させるかのような印象を与えますね▼民生・児童委員の広報紙「さくら」第27号の編集をしました。今年度からは10月1日、年一回の発行となりました。月末の市の広報に織り込まれて、各戸に配布されます。わたしの執筆したレポートも掲載されておりますので、「一読を！」▼そんな話も含めて日々の話題を綴るブログもご覧ください。http://sachihiro.com/#やまさんのブログから入れます。

さちひろ 第29号
編集兼発行人・山口 渡
平成20年9月8日
大阪狭山市今熊1丁目1133番地
Tel.072-365-2571



「みんなの教理入門」連載・8 お道 《天理教》

天理大学名誉教授・芹澤 茂

天理教の教えを、天理教学の泰斗・芹澤茂先生がわかりやすく解説します

親神様がこの世にあらわれて何を人間に教えるうとしたかと言えば、まず第一に、「人間とはどういうものか」(連載7かきもの・かりもの参照)、「この世に生きている人生の意義はなんであるか」(連載8元初まり参照)ということである。

心をすましてこのことがわかり、硯神様のお心や守護を実感し、心がいさんで陽気ぐらしするようになるのを、親神様は願っておられる。

健康な人にかぎらない。病人も、身寄りがなくてひとり暮らしの人も、稼(かせ)ぐために毎日が働きづめの人、老人も子供も、みな一様に親神様はわが子として見守り、援(たす)けておられるのである。

もちろん苦しい生活のことを老えれば、「神様が援けてくれている」など、とても信じ難いことと思われるかも知れないが、信じ難いことを信じていく努力が大事である。

信じていけば真実(真理)心づかいはどうあるべかもおのずからわかり、考えたりしたりするこ

とが天理にもとることもなくなる。

いつもきれいな心でくらすことができるはずである。

と言ってもこれは理屈で、信仰の深い人はよいが、信仰の初めではこのようなわけにはいかない。そこで、いわば教育的見地から、信じていくとこのような心掛けや行動になって行くのであると、結果を先取りして教えなければならぬ。

すなわち、どのように信じていけば陽気ぐらしできるようになるかを教えられているのである。

(この教理は次回以降(連載9・15)にとりあげる)

親神様、おやさまを信じ、おやさまより聞かしたるもつた親神様のお話を信じて、いよいよ信仰の世界に入る。

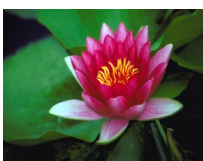
信仰の世界は、人間の知恵ではわからなかった憤りの世界であり、これまで味わったことのない新しい陽気ぐらしの世界である。

この信仰の道を歩むことはお道につながっていくことであるから、このお道についてよく理解し、

これをどこまでも信じていくことが大事である。お道を信じなくては、信仰の道を歩むことはできない。

お道を理解するには即席の話だけでは無理であるが、二つの点を述べておきたい。

「お道（天理教）は、今年から百四十六年前（数え年では百四十七年前）《編者註・昭和49年当時》の天保九年におよさま（中山みき様）によって始められた宗教であり、親神天理王命を祀り（崇拜し）、人間が陽氣ぐらしで生きる道を教える。」



これはだれでも知っていることである。お道が初まったのは、確かにおよさまからであるが、人間の知恵や覚（さと）りによってこの道を教えられたのではない。親神様がおよさまをやしる（社、人間的顕現）としてこの世にあらわれ、みずから教えられたものである。お道は天理教と称して、一つの宗教には遠くないが、

普通の宗教ではない。

「お道は親神様のやしるとしてのおよさまが、天保九年から五十年間真実を尽くしてつけられ、さらにそれ以後約百年間、信仰者がおよさまの導きのもとに歩んで来た道である。」

もちろん人間のすることであるから、いつも親神様のお心どおり、およさまのお心とおりにできたとは言えないが、信仰者はその時その場において、およさまの五十年の「ひなかつた」（雛型、手本）を思い、努力して歩んで来た。このお道は「たすけ一条」と言われ、人間が陽氣ぐらしできるように援けて行く「たすけの道」である。

お道は、親神様によって初まったこと、たすけの道であること、この二点はよく心にとめておく必要がある。（お道に関する教理はのちに（連載19〜34）詳しく述べる）

芹澤 茂（現・天理大学名誉教授）

この記事は、昭和59年に「天時時報」紙に連載されたものです。

幸せを届ける言葉

高橋美津志「ちよつとひとこと」

（善本社刊）から

心のふしん

雨の日は泥濘（ぬかるみ）風の日は砂塵（さじん）が舞い、通行に難儀する脇道に、舗装工事のため「通行止め」と、立板の杭があつた。通さぬは通すがための道普請である、思わず考えた。

自分本位、自己中心で、周囲の人を困らせ、気づかずにいると神さまは、

その人に病氣や事情で、通行止めをさせて、過去を反省させ、心の立て替えを促し、

人の悲しみは共に悲しみ、人の喜びは共に喜び、

思いやりの深い人間に導こうとされている。だとしたら病氣や事情は、

幸福な人になる心のふしんである。

おさしづの点滴 (8)

これ俄かに咲く花は、切つて来て床へ挿してあるも同じ事。これはのじの無いものである。さあ〜これ根のある花は遅なる。なれども年々咲く。又枝に枝が栄える。根も踏ん張る。
(24・11・1)

【解説】

「根のある花」は、教祖に根付いたこの道の信仰を花にたとえて仰せられたもので、「俄かに咲く花」と対照的に語られています。「俄かに咲く花」とは「切つて来て床へ挿し」た花、切り花、生け花です。

根のある花

― 枝が栄える。根も踏ん張る。

花は見る人の心をなごませます。また開花結実と言われるように成果として収穫の喜びをもたらします。「俄かに咲く花」は、短時間で開花しますが、「のじ」（持久力）がない、すぐに枯れてしまいます。「蕾の花を生けたら一先ず見られる。なれど、日柄経てばほかしてう」（31・6・3）。一方「根のある花」は、時間がかかるが、毎年開花結実し、年々枝が栄えて根を伸ばし、成長します。

道を通るものにとつての花は、「身上のさわりも事情のもつれも、ただ道の花として喜びの中に受け取れる」（教典第九章）とありますように、また「身上・事情は道の花」と言われますように、身上や事情が花だと教えられ、人間にとつて都合なものが普通ですが、お道はちがいます。身上・事情こそ花として見て喜び、将来の生きる糧（かて）となるものなのです。

「おさしづ全文」

卷二（明治二十四年十一月一日）

さあ〜身事情 一つ事情尋ねる。身上事情尋ねる。いかなるであらう。身上から尋ねば一つ論じよ、論は前々からの事情改めてみよ。さしづは何度論じてある。今という今、これまで幾度尋ねたか。一時の処にては所という。道のため運命、治まる処、一つ事情よく聞え分け。これまでというは、とんと分からなさんだ。思ひ日々事情尽す中、尽す中、とんと事情他の事情とんとなぬ。一寸一時の処にては、印事情下ろしたる。これ誰のものでもなし、人のものでもなし、そんなあめんものもの、めんくものでもなし。一つ事情は、聞き分けの理、藤かお尽す理は十分受け取る。人の事の理はどのくらい思ふとも受け取らん。めんく尽すだけめんく。内々いろ／＼心ある。事情いろ／＼ある。一寸理では全事情治まりてある。多く事情世上の理、めんく一人幾重の事情に、長くは先の業しみ、短くは業しみ無し。これ俄かに咲く花は、切つて来て床へ挿してあるも同じ事。これはのじの無いものである。さあ〜これ根のある花は遅なる。なれども年々咲く。又枝に枝が栄える。根も踏ん張る。この道理をよろしく思ひこめてみよ。さあ〜身上はちよつと幸せの事は無いで。